

不祥事根絶のための行動計画

江田島市立江田島中学校
作成責任者 校長 宮本 好章

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

私たちは、求められる教職員像と教育の原点を常に意識し、不祥事を許さず根絶します。

区分	本校の現状と課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○他の教職員の言動についてお互いが関心をもつようになり、指摘し合ったり管理職へ進言できるようになったりしてきた。 ○年間計画に沿って各担当者が服務研修を行っており、不祥事を自分のこととして考える意識が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○常に危機意識をもって、最悪の事態が想定できるようにする。 ○自分たちに考えられる不祥事についてイメージできるようにする。 ○教職員一人一人が不祥事を許さない意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○週始めに「教育の原点」の全員唱和を継続する。 ○県教委の「不祥事根絶への取組」冊子や先事例を積極的に活用し、事例研修を充実させる。 ○報告・連絡・相談の徹底を図る。 ○各学期に、学年が運営して不祥事研修を行うことで、やらされる研修ではなく、主体的に取り組む研修を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に服務研修を実施する。 ○毎月1回、不祥事防止委員会を開催する。 ○担当者・学年が企画した服務研修を学期ごとに行い、不祥事防止委員会において検証を行う。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○机上整理や物の管理に課題がある教職員が固定化しており、具体的な取り組みを実施する必要がある。 ○服務に関する研修から、不祥事が生徒などに与える影響の大きさはイメージできているが、情報管理、整理、物の管理については課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事は小さな見逃しから生起していることを実感する。 ○本校の学校組織で本当に不祥事を防止できるのかを検証する。 ○不祥事は学校の機能を停止させ、生徒への教育が保障できなくなることを教職員全員で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公用物利用記録簿や持ち出し簿への記載を徹底や、机上整理に対する注意喚起を定期的実施することで常に整理整頓された職員室を目指す。 ○情報管理や成績処理等について、マニュアルを徹底し、チェック体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日管理職が確認・徹底する。 ○不祥事防止委員会でまとめて結果を教職員に配布する。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「なやみの相談日」は周知されているが、生徒が落ち着いており、相談がほとんどない。 ○「体罰・セクハラ相談窓口」が全ての生徒・保護者に周知されているが、相談されることはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に声かけをするなど「なやみの相談日」を期待し相談できる体制をつくる。 ○「体罰・セクハラ相談窓口」を全ての生徒や保護者が認知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「なやみの相談日」ごとに校内放送等により生徒に周知し、担当教職員を指定教室に時間を設定して待機させる。 ○学校だよりなどで保護者等に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。また、保護者から体罰、セクハラについてアンケートを実施し聴取する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○S Cや主任児童委員等がはじめ防止委員会において相談体制を評価する。 ○学期末に生徒、保護者及び本校教職員を対象にアンケートを実施する。